

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201136		
法人名	有限会社 ツェルン		
事業所名	グループホーム・オアシス		
所在地	千葉県柏市柏下218		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成28年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北柏駅より徒歩15分の便利な地にあり、大学病院や老人保健施設が隣接している為、緊急時には高度な医療の受診が可能である。また周辺には柏公園、ふるさと公園、文化会館なども近く、自然豊かで緑が多い為晴天時に行っている散歩では四季の移り変わりを肌で感じる事ができる。建物は平屋建て全館バリアフリーの安全な設計になっており、約8畳の個室と日当たり充分な談話室、中庭からの光を取り入れた開放的な造りは、入居者及びご家族にも好評である。特色としては、夏季は毎日の入浴、三食手作りの食事には家庭菜園の無農薬野菜も利用している。また夏にはホーム敷地内から見える手賀沼花火大会に合わせて納涼祭を行うなど、家族参加の季節行事も行っている。行事の際は入居者にもお手伝い頂いて、スタッフと一緒に食事作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的で暖かみのあるグループホームである。ホーム長を中心に、安心して穏やかな生活が送れるよう支援している。利用者の言葉にならない思いや意向まで汲み取り、日々の支援に反映するよう努めている。入居して、始めは不安で落ち着かない利用者も、職員のこうしたきめ細やかな対応にふれ、笑顔を取り戻してくるという。認知リハビリとしての大人の計算ドリル等にも取り組んでいる。家族アンケートには、どの職員も話しやすい、よくしてくれる等職員に対する感謝の声が多く寄せられている。重度化した場合にも、地元の医療機関と連携して、家族から希望があれば、看取りまで行っており、今まで3人の看取りを経験している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めには職員全員で理念を復唱し、内容を共有している。また、常に目に見えるところへ掲示し、スタッフだけでなく利用者やその家族とも共有できるようにしている	「穏やかな笑顔と寄り添い合える暮らしを私たちの心で応援します」との理念で、「ケアの留意点」が書かれた書類を全員に配布して、理念に沿ったケアがなされているか確認しながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶を交わしたり、町会からの回覧板を利用者間でも回して読んでもらっている。町会のイベントには諸事情によりあまり参加出来ていないため、今後は参加できるように努めていきたい	地域とのつきあいを大切にしており、町会にも加入している。フラダンス、紙芝居、囲碁などの地域のボランティアの訪問も多い。中学生の職場体験や実習生受け入れも行っており、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせの他に相談窓口としても機能しており、グループホームの対象でない方にも丁寧に対応するよう心がけている。また、今年度は市民向けの講演や市のボランティア向けの説明会等の依頼を頂き、グループホームのPRにも役立てられた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に話し合われた内容やご意見はスタッフ会議で周知し、今後のケアに活かす様に努めている。また、会議だけでなくホームでの行事にも参加して頂きホームでのご様子を見て頂いている	今年度は運営推進会議を5回開催している。ホームの活動報告の後、ホームの課題についての意見交換が行われ、サービスの向上につなげている。参加者は会議後のイベントにも参加し、ホームに対する理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市介護サービス事業者協議会や柏市グループホーム連絡会等での会合で市役所職員とは頻繁に意見交換を行っている他、様々な問題点についても話し合っている	市の担当者とは、介護サービス事業者協議会やグループホーム連絡会等の役員として、法や制度の運用面での確認等、密接に連絡をとりあっており、必要な時にはいつでも相談できる関係を築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成してスタッフ全員が共有している他、年に一度は内容を見直している。玄関の施錠についてもできる限り行わない様努めている。	ホーム長を中心に身体拘束しないケアを徹底している。県や市の身体拘束に関する研修会に参加した職員が定例会時、その内容を伝達講習し、全職員で共有している。玄関は夜間等は防犯上施錠しているが、昼間は自由に外出できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度は会議時にマニュアルを確認しており、全員が内容を理解するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでも成年後見人制度を利用しているご家族がいらっしゃる為、その都度ご相談に乗っており、ホームとしても社会福祉協議会等から研修の案内を受けるなど、学ぶ機会を設けている。また、市民後見人制度の研修受入先にもなっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事前に契約書をお渡しして内容を確認して頂いた上で、契約日には時間をかけて1項目ずつ読み合わせを行い、疑問点や質問等が十分に理解された段階で契約を行うように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所した際にご意見を伺っている他、外部評価時のアンケート等での意見を元に会議等でスタッフに周知した上で、意見交換を行いサービスに活かしている	家族参加の行事が多く、家族が来所する機会も多いので、その時に意見、要望を確認している。家族会でも確認している。出された意見は会議、連絡ノート等で共有し、話し合われた上で、サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個人面接などで意見を聞く機会を設けており、出された意見については可能な限り反映できるよう努めている	管理者は普段から、職員と話し合うよう心がけている。定例会でも意見は言いやすい雰囲気である。職員の提案でスタートした認知リハビリとしての大人の計算ドリルの実施は、定着している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、当ホームに限らず深刻な人手不足である事と、今年4月の大幅な介護報酬減額により就業環境を整備する事が難しく、一刻も早く職員が向上心を持って勤務できるような環境を整えられるようにしたい現状である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して、協議会や連絡会主催の研修に積極的に参加している他、外部で研修を受けてきた職員がホーム内の会議で他職員へ周知できるような体制を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会や連絡会で年に2回、スタッフ同士の交流会、研修会が企画されており、同じ介護サービスに勤務しているスタッフ同士が意見交換ができるような機会を作っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所して間もないうちは不安も多く、緊張している為、ゆっくりと話す時間を作る等本人の状況に配慮したケアを心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者同様、ご家族も不安に思っている事が多くある時期なので、面会の際や電話などで今の想いを伺い、信頼関係を築ける様に配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状況を把握した後、必要があれば他のサービス利用をご家族に提案し、柔軟に対応している。(ホームでは訪問マッサージを利用している方が多い)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これから一緒に暮らす仲間や家族として、喜怒哀楽を共にできるような関係性を築けるように、時にはスタッフが間に入ってスムーズに馴染めるように努めている。また、その時にできる事を見極めて、お手伝い等をしながら生活できるようにサポートしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームにおいては、家族も大事な支援者の1人として、共にご本人を支えてもらえるよう、日々の生活の様子を定期的にご報告して、今のご本人の状態を正しく把握して頂けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へ帰ったり、子どもの家へ外泊したり、友人の来訪や一緒に外出する等、本人の状態をみながらできる限り関係が継続できるよう支援している	面会は深夜、早朝以外であれば何時でも受け入れている。毎日面会に来る家族も複数おり、利用者と一緒に外食等へ出かけている。利用者の中にもと編み物の先生がおり、お弟子さんの面会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話室などに集まる際には、生活暦等から、お話が合いそうな方と一緒に座って頂く等、スタッフが配慮している。また、なかなか馴染めない方にはスタッフが積極的に声掛けをして、無理なく中に入っていけるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に行ったり、ご家族から連絡を頂く等交流が続いている。また、新しい入居先での悩みやご相談に応じることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には必ずご本人と面談をして本人の希望や意向を聞き取るようにしている。また、日々の生活の中から意向を把握する場合もある	利用者のやりたいことや暮らし方の希望を把握する為、観察や傾聴を大切にしている。個人記録・連絡帳・業務日誌等を基にスタッフ会議にて個々のケース検討を行い、把握した内容は全職員で共有し、笑顔で寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の事前資料を細かく記入してもらう他、他サービスを利用していた場合にはサマリー等でスタッフ全員が内容を把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の血圧や体温チェックをはじめ、言動やお暮らしの様子を細かく記録に残し、スタッフ全員でその方の現状を把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月必ず行われるスタッフ会議でケース検討を行い、意見を出し合っている他、ご本人やご家族からの希望も取り入れるようにしている	スタッフ会議で課題やケアの方法等を話し合い、モニタリングは毎月、計画の見直しは3ヶ月毎に実施し、各利用者に合った介護計画を作成している。計画は家族の面会時に説明・話し合を行い、面会の少ない家族へは電話や手紙等で連絡・確認を取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとりの個人記録には、特に心境の変化や訴え等を細かく記録し、必要であればスタッフ間で共有している連絡帳に記載して情報共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態に応じて、マッサージや訪問入浴、訪問看護などの外部サービスを取り入れている。サービスを取り入れる際にはご家族と十分に話し合うよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	柏市の介護支援サポーター制度に加盟しており、園芸をはじめ、囲碁や清掃作業、紙芝居など様々なボランティアさんにサポートをしてもらうことで充実した生活を支援して頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば往診医以外でも、今まで通っていた主治医の受診を継続して受ける事も可能であり、急変時等にはスタッフも同行して症状や状況の説明を行う等支援している	利用者のかかりつけ医はホームドクターで月2回の往診があり、急変時には必要に応じて救急車を要請する。精神科や皮膚科等の専門医は家族が通院介助を行っている。訪問歯科医は週1回の訪問で、口腔内の衛生指導等を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が勤務し、心身の状態のチェックや薬の管理等を行っている。また、スタッフからケアに関する相談や、ご家族との医療面での相談、助言等にも応じている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの提供や生活状況等を詳しく話し合い、情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状況を見て、ご家族と終末期に向けた話し合いを行っている。話し合われた内容はスタッフ会議で報告し、情報共有している。また、昨年はご家族と全スタッフが協力し合い、看取りを行う事ができた。今後もこの経験を活かしたい	「緊急時における処置と延命に関する同意書」で家族に確認を得ている。状態変化の際には医師の指示の下、家族・ホーム長・看護師で話し合い方針を共有している。看取り経験もあり、職員の心のケアとスキルアップし、さらなる看取り介護の体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年から救急要請時にスムーズに対応出来るように柏市消防局が作成した傷病者情報の用紙を準備している。また、緊急時の対応研修に参加し、内容はスタッフ会議で周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、ライフラインが止まった時を想定して、炊き出しの訓練も行っている。また、認知症の方は避難所への避難が難しい為、救援物資等の提供について、行政と協議している	年1回消防署立合の災害訓練、ホームでは自主的に火災・地震・水害を想定して避難訓練を年2回以上実施している。避難場所はホームの中庭とし、炊き出しの訓練も行っている。河川氾濫時、避難場所が高台となる為、地域住民との協力体制を検討している。	ホームの周辺は大堀川が流れ低地にて、河川氾濫時、避難場所は高台となる為、高台の地域住民と協力体制が構築できるよう、話し合がなされる事を期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには注意を払い、トイレ誘導時にも尊厳を損なわない様に気をつけている。また、プライバシーについては全スタッフと誓約書を取り交わしており、個人情報管理についても取り組んでいる	トイレ誘導の際には周囲の利用者に気付かれないよう、耳元でさりげない言葉かけに努め、利用者の視点に立った支援に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	他の入居者がいる場所で意見が出せない方もいるので、個別で話を聞く時間を設ける等柔軟に対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた時間をあまり作らないように配慮し、なるべく本人のペースで過ごせる様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、出来る方にはその日着る洋服は自分で選んで頂いている他、訪問美容室を定期的に利用して身だしなみに気をつけている。以前から通っている馴染みの美容室を利用している方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、畑の作物と一緒に取りに行ったり、行事の際には一緒にお料理をしている。また、テーブルや食器拭きなどをお手伝いして頂いたり、無理の無い範囲で食事時の挨拶などを当番制にしている	ホーム菜園の無農薬野菜を取りに行ったり、調理の準備をする等、利用者のできる範囲で職員と一緒にやっている。各ユニット毎に献立を考え、職員は順次に3食手作りの美味しい料理を提供している。利用者と職員は家庭的な団欒と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表に記入し、偏りの無い食事作りを心がけている。水分量はなるべく多く摂ってもらい、摂取量を記録する等して脱水にならない様に気をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔ケアと義歯洗浄を行っている。また、週1回訪問歯科診療があり、定期的に口腔内のチェックをして頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、記録を元にスタッフが声掛け、誘導を行っている	「個人記録」と「全体記録」を基に、一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は全利用者がトイレで排泄を行っている。夜間は身体状態に応じて、一人で行く方、見守りの方、転倒の危険がある方はポータブルトイレを使用する等、安全を重視した対応を講じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量、ストレッチや毎日の散歩等で自然に排泄できるように努めている。それでも難しい場合は医師と相談の上、薬を処方してもらっている		
45		一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏は毎日、冬は隔日入浴をしている。個人ごとの介護レベルにより、細かい希望をかなえる事は難しいが入浴時間等はできるだけ希望に沿えるように努めている。1番初めに入浴したい方が多数いるので、平等になるよう順番制にする場合もある	朝、健康チェックを行い、入浴時間はA棟・B棟によって異なるが、夏季はほぼ毎日、冬季は1日おきに入浴が楽しめる。歩行力の不安定な利用者はシャワーキャリーを活用し、安心・安全な支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内に設けられた談話コーナーには自然光が入り日光浴をしながら思い思いにくつろげるスペースになっている。就寝時間は個人の生活習慣に合わせて個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬の種類や作用をまとめたファイルがあり、いつでも確認できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の散歩を個人別に対応したり、レク等でも気分転換できるように支援している。また、出来る方には積極的に家事をお手伝いして頂いている。各々の役割があり、ぬか床をかき混ぜる事を日課にしている入居者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩のコースを変えたり、数名ずつ少人数での外出や外食に出掛けている。毎年、音楽鑑賞や舞台鑑賞をする機会を設け、ご家族にも一緒に参加して頂いている	天気の良い日は少人数毎に、近隣の公園・カフェ・買い物等へ出かけて楽しんでいる。車では数名ずつ、季節の花見・外食・図書館等へ行っている。家族と泊まりで温泉へ行く利用者もいる。花火大会や市交響楽団のオーケストラ鑑賞等には家族も参加している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想の訴えが強くなったりと混乱が多く、自己管理が難しい為ホームで立替払いをしている。スタッフと一緒に買い物に行った際にはご本人に支払いをして貰う機会を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームに電話があった際にはご本人へ取り次いでいる他、友人や家族へ手紙を書く方も多い。年末には全員で年賀状を作成し、文章を書くことが難しい方にはスタンプ等で作れるように工夫している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの各玄関には、入った時に自然光でも明るく感じられる大きな窓が設置されており、玄関には皆で作成した季節感を感じられる飾りや季節のお花を飾って気持ち良く過ごせる空間作りを心がけている。また毎日のトイレ掃除の他にも汚れ等が無いかこまめにチェックしている	高い天井と大きな窓が開放感のある明るい雰囲気を作り、自然を眺め季節を間近で感じゆったりと暮らせるよう配慮されている。室内にはパッチワークや書道等利用者の特技を生かした作品を飾り、A棟・B棟それぞれ工夫を凝らし居心地の良い空間を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各棟に2ヶ所ずつ談話コーナーを設けており、思い思いにテレビを観たりお茶を飲めるスペースになっている為、入居者同士で歓談できる憩いの場となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなるべくご本人が使っていた家具や思い出の品などを持ってきて頂き、写真を飾る等してご本人が居心地良く過ごせる空間作りを心がけている。また、ご仏壇の持ち込みも可能であり、お供えのご希望にも柔軟に対応している	利用者の普段使い慣れた調度品を室内に配置し、落ち着いて過ごせるよう配慮している。各部屋に居室担当を設け利用者と一緒に衣類や収納の整理を行い、できる方はご自分で自室の掃除機掛けを行うなど利用者自身で居心地よく整えられる機会を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、各所に設置された手すりにより自力歩行が可能になったりと、1人ひとりが自立した生活を送れる様に配慮されている。また、居室のネームプレートやトイレの表示も分かりやすく工夫している		